

インドネシア共和国におけるコールベッドメタン(CBM)鉱区権益取得について

石油資源開発株式会社(本社:東京、社長:渡辺 修)、大阪ガス株式会社(本社:大阪、社長:尾崎 裕)、ジャパンエナジー石油開発株式会社(本社:東京、社長:森田 憲司、株式会社ジャパンエナジーの100%子会社)、エルエヌジージャパン株式会社(本社:東京、社長:米澤 健一)の4社は、BP社(英国)、ENI社(イタリア)、Opicoil Energy社(台湾)と共同でインドネシア共和国エネルギー鉱物資源省が実施した国際入札を通じて、サンガサンガ CBM鉱区を落札し、本日、インドネシア政府と生産物分与契約を締結いたしましたので、お知らせいたします。

サンガサンガ CBM鉱区は、面積1,747平方キロメートルで、同国東カリマンタンに位置しており、4社が株式会社ユニバースガスアンドオイルを通じて権益を保有するサンガサンガ鉱区と同一地域を占めています。また、本事業を推進するため日本コールベッドメタン株式会社を設立しましたので、併せてご報告いたします。

記

1. 日本コールベッドメタン株式会社の概要

商号 日本コールベッドメタン株式会社(英文名: Japan CBM Limited)

所在地 東京都千代田区丸の内1-7-12

代表者 代表取締役社長 揖斐 敏夫

設立年月日 2009年(平成21年)11月30日

資本金 75百万円

株主構成 石油資源開発(株)40.12%

大阪ガス(株) 40.12%

ジャパンエナジー石油開発(株) 14.97%

エルエヌジージャパン(株) 4.79%

2. 鉱区の概要

鉱区名	位置	面積	権益比率	
サンガサンガ CBM鉱区	東カリマンタン州陸上	1,747 km ²	Japan CBM社	4.375%
			BP社	26.25%
			ENI社	26.25%
			VICO社	7.5%
			VIC社	15.625%
			Opicoil Energy社	20.00%

※オペレーター: VICO社

※VICO社及びVIC社は、BP社とENI社が各50%出資をしているプロジェクト会社です。

以上

【コールベッドメタン(CBM)について】

コールベッドメタン(CBM)は、石炭層から抽出されるメタンガスです。インドネシアには膨大な CBM が賦存する可能性があると考えられており、CBM の資源量は 450 兆立方フィート、鉦区が位置するクタイ堆積盆地だけでも 80 兆立方フィートに及ぶと推定されています。しかしながら、インドネシアではこれまでのところ、商業ベースの CBM 生産は行われていません。

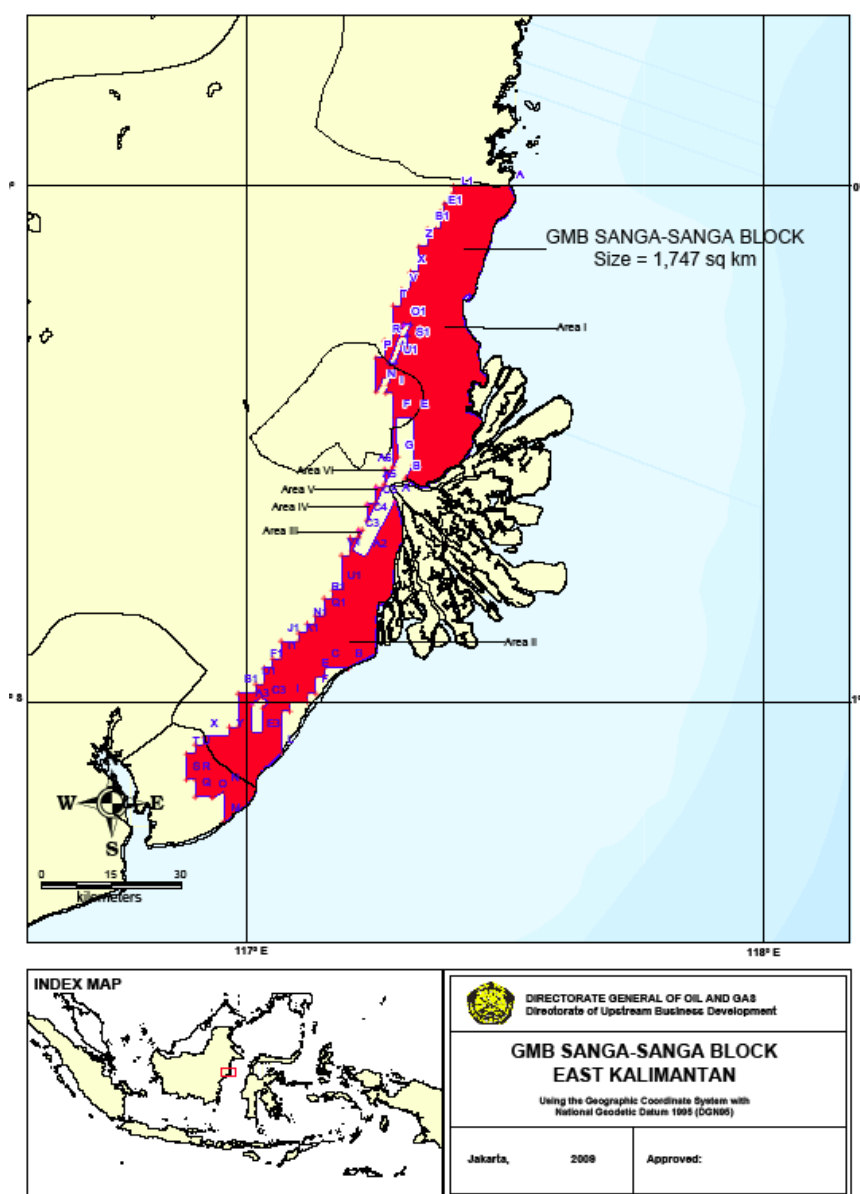
【株式会社ユニバースガスアンドオイルについて】

1990 年 6 月、石油資源開発(株)は大阪ガス(株)と共同でサンガサンガ鉦区に権益 4.375%を持つ Universe Gas and Oil 社(リベリア法人)の株式を取得、同年 8 月、石油公団(当時)、ジャパンエナジー石油開発(株)、エルエヌジージャパン(株)の出資を得て(株)ユニバースガスアンドオイル(日本法人)を設立しました。サンガサンガ鉦区で生産されたガスはボンタン LNG プラントに送られ、日本、韓国、台湾等向けに出荷されており、2008 年の実績は 43 カーゴ(約 250 万トン)となっています。

【CBM 開発について】

BP は CBM 開発における世界的なリーダー企業であり、米国を中心とする大規模 CBM プロジェクトの操業実績を有しています。また、オペレーターの VICO はサンガサンガ鉦区で 40 年以上に亘り操業を行っており、広範囲のパイプライン網、コンプレッサー施設を含む、同鉦区の既存設備を有効に活用することにより、早期に CBM の生産を開始できるものと期待しています。

【鉦区位置図】 サンガサンガ CBM 鉦区



※鉦区名は「GMB SANGA-SANGA」（「GMB」はインドネシア語でコールベッドメタンを意味します。）